



JSPE Magazine Quarterly

The Japan Society of Professional Engineers

州登録関連記事

各州PE法事情

PE registration rule, State by State

ワシントン州

State of Washington



WASHINGTON STATE DEPARTMENT OF
LICENSING
BOARD OF REGISTRATION FOR
PROFESSIONAL ENGINEERS
AND LAND SURVEYORS

Board Chair : Mel Garland, PLS

Land Surveyor

PE登録されるということは、たとえ市民権がなくともその州の一員となることである。
連載第二回は、シアトルで有名なワシントン州(WA)です。

1. WA州PEボードの構成

WA州のPEボードは州ライセンス局(DOL: Department of Licensing)が管轄する委員会であり、略称は単に「DOL」と呼ぶ。なお正式名は表題部のとおり非常に長いもの。

ボードメンバーは7名、スタッフは12名である。

WA州PEボードURL : <http://www.dol.wa.gov/business/engineerslandsurveyors/>

今回はこのURLからダウンロードした以下の資料を読み込んだ。

- ・ 関連州法 RCW (Revised Code of Washington) 及び州規則 WAC (Washington Administrative Code)
- ・ The Washington Board Journal Fall 2007 / Spring 2008 / Fall 2008 (Resources → Publication)
- ・ Board Minutes (What's new → Join mailing list)

2. WA州PE法・規則の特徴

WA州のPE法/規則で特徴的な点として次のことが挙げられる。

- ・ 学歴要求 4年 + 職歴要求 4年ではなく、職歴要求 8年の中に学歴も含める形となっている。(WAC 196-12-021)
- ・ 職歴ではプロジェクトマネジメント的な経験が要求される。(WAC 196-12-020)
- ・ 職歴 12年以上、又は博士号保持者であればFE試験免除の可能性(WAC 196-12-050)
- ・ 2007年よりLand Surveyorについては年間15HのCPDを要求するようになったが、PEについては今

のところ CPD が要求されない。(RCW 18.43.060)

- ・ 本来 Structural Engineer(SE)にのみ認めていた構造エンジニアリング業務を条件付きで PE にも認める動きがある (RCW 18.43.040)

PE 受験/登録申請時の学歴証明をどうするか？

WAC 196-12-021 には, ABET 認定の工学系大卒は 4 年の職歴相当と認定, また ABET 非認定であっても最大 3 年の職歴相当と認めるとある。オレゴン州登録の場合, 日本の工学系大卒証明書に加えて ECE, CPEES などから ABET 相当認定書を取得することが MUST であったが, WA 州登録では職歴年数に余裕があれば, 日本の大卒証明書提出のみで認められる可能性があると言える。(本 Magazine 前号の岩下 PE 登録体験談も参照下さい)

PE 受験/登録申請時の職歴はどのように記述するか？

WAC 196-12-020 では Work experience records として次の 8 つの分類を記述するよう求めている。

A. *Formulate conclusion and recommendation*

受験者本人が過去に解決した問題 (Trouble など) の概略をまとめよ。

B. *Identify design and/or project objectives*

受験者が経験した設計 (日本流の図面描きではない) 又は仕事 (Project は必ずしも大げさな事業でなくとも良い) の実例を挙げなさい。

C. *Identify possible alternative methods and concepts*

受験者が経験した代案の提案およびその概略 (concept の英英辞典の第一義は "general notion" です)

D. *Define performance specifications and functional requirements* (性能仕様や機能要求を定義する)

与えられた仕事と組織的ポジション上の職務 (performance: 仕事; specifications: 明細、内容)

E. *Solve engineering problems*

技術的問題を解決する)

F. *Interact with professionals from other areas of practice*

他部門の専門家との接触 (恐らく弁護士や保険会社などの Engineering 以外をも含めて考えるのがアメリカ人の Common Sense のようです)

G. *Effectively communicating recommendations and conclusions*

他部門との連携 (これも F.と同じように、Engineer 以外を含めて考えてもアメリカ人にはピント外れとは受け取らないようです。

H. *Demonstrate an understanding and concern for energy/environmental considerations, socioeconomic impact, and sustainability of resources*

環境配慮および資源の持続性に対する理解と関心を示す事例を記載しなさい

あなたのエネルギー、環境配慮および資源の持続性に対する理解と関心を示す事例を記載しなさい

A~G の 7 項目は Project Management の基本的なプロセスを適用しているものであると言え, PE になろうとする人にはプロジェクトマネージャとしての能力も暗に要求していると理解できる。

また H は, Evergreen State をニックネームとする WA 州の環境政策を現しているものと言える。

構造エンジニア (SE) と PE の関係

SE は Civil PE 保有者が上乗せ取得する上位資格であり, これが独占していた構造エンジニアリング業務を PE にも認めるようにする動きの背景には, 同州内における構造エンジニアの不足などがあるのかもしれないが, 確認はできていない。

PE への CPD は今後とも不要のままか？

WA 州では Land Surveyor の CPD 要求が一昨年より始まったこと, および隣接のアイダホ州では間もなく PE に CPD を要求するようになっていく等の情勢からすると, 近いうちに WA 州の PE にも CPD 要求が適用されるようになるのではと筆者は推測している。

(アイダホ州 PE 協会の動向 http://www.idahospe.org/feb_8_2008.htm ほか)

また、PE 受験、登録、更新料金は次のとおり。オレゴン州に比べるといずれも安い。

・受験申請 65 ドル (NCEES 受験料は別) ・登録申請：150 ドル ・更新：116 ドル

3 . Board Journal でのトピック

PE スタンプから"Expiration Date"を削除 (2007 Fall)

90 年代にスタンプに追加した"Expiration Date"記入を 2008 年に再び廃止した。理由は PE スタンプをデジタル化する際の不都合などとされている。

他州、他国の PE 相互認証基準の検討 (2008 Spring)

1994 年の NAFTA(北米自由貿易協定)発効後、隣接するカナダ各州との間で PE 相互認証の可能性を 14 年間にわたって模索してきた経緯が紹介されている。その成果として、次のような相互認証基準草案 (Conceptual Rules for PE Licensure via Comity) を公表している

3 人の上司、3 人の同僚からのリファレンス 他州、他国の有効なライセンス保持者であること
英語の会話、記述が行えること 技術業務経験 6 年以上であること。かつ 2 年以上米国での業務経験があるか、米国規格に基づく業務に従事していたこと 人格と評判に優れていること

PE 試験での不正事例紹介 (2008 Spring / Fall)

FE 試験でカンニング発覚 再受験 1 年停止。および大学の技術倫理コース受講
PE 試験中に問題をスキャン盗用 6 ヶ月の執行猶予。及び NCEES が 100 万ドルの損賠請求

PE 法違反事例 (2008 Spring / Fall)

PE でないのに PE を詐称し永年サービスを提供 永久ライセンス拒絶。及び罰金 4 万ドル
PE が自ら関与しない図面にスタンプを押した 1 年間のライセンス停止



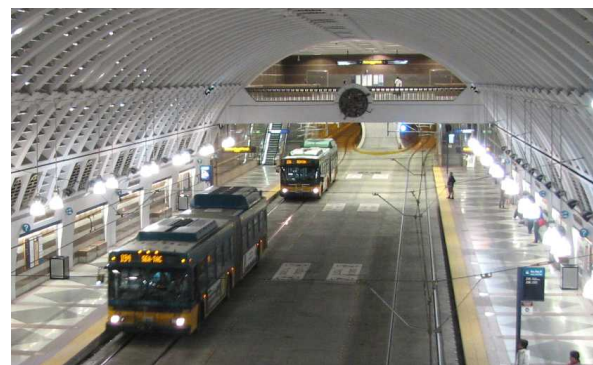
タコマ橋



B747テスト機



シアトルの浮き橋



シアトルのトンネルバス

4. 余談

WA 州にはボーイング航空機、 Tacoma 橋、 浮き橋、 トンネルバスなど数々の技術名所がある。 筆者は昨年 7 月の NSPE 総会参加 (ポートランド) の機会を捉えてシアトルにも足を伸ばしこれらの名所を実際に見ることができた。 WA 州はこのように常に斬新な技術を世に送り出す一方、 日本人を含む外国人の PE 取得にも門戸を開放しているため、 今後とも注目していくべきである。

次回は米国内で PE 法がもっとも良く整備されていると言われるテキサス州です。

記 2009/3/30
PE-0151 川村武也

オレゴン州試験資格認定委員会情報

州へ直接する受験者や日本の PE 試験を合格され州登録する時、 資格認定が気になります。 Oregon ボードでは試験資格認定委員会の議事録を公開しておりますので、 定期的に掲載します。

今回は、 オレゴン州の PE 試験ボード (OSBEELS) の「Examinations & Qualifications Committee (試験・資格認定委員会)」にて討議された内容から、 米国州への PE 登録を円滑に進めるために留意すべきことは何かを読みとっていきたいと思います。

この委員会では偶数月にミーティングを行っており、 試験や資格認定の様々な事象について討議していますが、 その中の重要な項目の一つに、 FE/PE 受験や他州からの PE 登録 (東京での PE 試験に合格し、 オレゴン州へ PE として登録するのもこれに当たります) の申請書類についての、 受入可否の検討があります。

特に、 何らかの懸案事項があり、 適否判断に迷うような場合は、 その判断結果と理由が議事録に残ります。 ご興味のある方は、 以下のウェブサイトにアクセスしてください。

<http://www.osbeels.org/> à この「Meeting」タブをクリックし、 そこから更に「Examinations & Qualifications Committee」の議事録リンクへジャンプしてください。

ここでは、 直近 4 回の議事録 (2008 年 8 月以降) に絞り、 特に皆様に関心の高いと思われる「PE 試験」「他州からの登録」についての分析を試みます。

1. 申請書類が受け入れられない理由は何か?

「学位が ABET の基準に達していない (10 名)」「職歴を保証するリファレンスが確保されていない (2 名)」「そもそも PE or FE 試験に合格していない (2 名)」「リファレンスにポジティブでないコメントがされている (1 名)」「大学院での経験を 4 年間の職務経験に組み込もうとして拒否された (1 名)」
学位の問題が最も大きいことが伺われますが、 上記 10 名のうち 8 名が韓国人です。 韓国の ABET 承認の



Oregon

State Board of Examiners for
Engineering & Land Surveying
670 Hawthorne Ave. SE, Suite 220
Salem, OR 97301
(503) 362-2666
Fax (503) 362-5454
E-mail: osbeels@osbeels.org

EXAMINATIONS & QUALIFICATIONS COMMITTEE

Minutes of Meeting
December 12, 2008

The meeting was called to order at 11:08 a.m. in the conference room of the Oregon State Board of Examiners for Engineering and Land Surveying (OSBEELS) office at 670 Hawthorne Avenue SE, Suite 220, Salem, OR 97301.

Members present were:
Ed Butts, Chair
Ken Hoffine
Amin Wahab
Mari Kramer (excused absence)

Staff present was:
Mari Lopez, Executive Secretary
Jenn Gilbert

Others present:
Bob Neathamer, PLS
Joanna Tucker-Davis, Assistant Attorney General
Katharine Lozano, Assistant Attorney General

Guest Discussion:

Four-hour Oregon Specific Land Surveying Examination – Bob Neathamer, PLS
Bob Neathamer attended the meeting to discuss proposed revisions to the four-hour Oregon Specific Land Surveying Examination syllabus. He stated that the two main purposes for the revisions were to update the syllabus to correlate to the current exam process and to also change the form and content of the examination. Mr. Neathamer noted that the six-hour National Council of Examiners for Engineering and Surveying (NCEES) professional land surveying portion was revised to reflect the current examination administration by the Engineering and Land Surveying Examination Services (ELSES). He also informed the Committee that the four-hour Oregon Specific portion of the examination was revised from seven examination items to five examination items that distribute questions related to the Oregon Revised Statutes (ORSs) and the Oregon Administrative Rules (OARs) throughout the examination. He further suggested, if approved by the Board, that the syllabus be sent to the approved candidates with approval letters from the Board. After a brief discussion, the Committee agreed to present the revised four-hour Oregon Specific Land Surveying Examination syllabus during the January Board meeting for approval.

現状は分かりませんが、構造的な問題がありそうです。リファレンスに絡む問題が次に多いのですが、これは下の設問3.とも関連していますので参照下さい。

2. 申請書類が受け入れられなかった場合の、追加処置はどんなものか？

「8年間の追加職歴が必要(4名)」「4年間の追加職歴が必要(4名)」「少なくとも1年間の経験を証明するリファレンスが追加で必要(2名)」「PE・FE試験の受験を認めるので合格すること(2名)」「2年間の追加職歴が必要(1名)」「少なくとも追加のリファレンスを2名と、リファレンスとの(ポジティブでないコメントについての)討議内容(1名)」「少なくとも6コースの完了(1名)」「提案なし(1名)」。追加の職歴が必要となるのは学位の問題が絡む場合ですが、逆に言えば、「職歴が充分であれば学位が多めに見られる」という可能性も示唆しているように読みとれます。

3. リファレンスに不備があると、必ず受入不可となるのか？

必ずしもそうとも言い切れません。リファレンスに何らかの懸案があった場合でも、討議の結果、試験や登録が認められている事例が議事録に記載されています。今回分析した限りでも、日本人2名が、職歴を十分に証明できるPEがリファレンスに不足していたにもかかわらず、PE受験を認められています。リファレンスのうち何名が最低、そういったPEである必要があるのか、具体的には読みとれませんが、社内にPEが不在である、という理由のみでPE登録を諦める、というのは避けるべきではないでしょうか。

4. 申請書類が受入不可となる人の国籍は？

「韓国(10名)」「米国(2名)」

氏名のみから判断しており、且つ不明の場合はひとまず米国籍、としておりますので、やや正確性を欠くかもしれません。

韓国籍の受験者は母体も大きいのですが、ABETとの絡みで学位に懸案がありそうです。ちなみに日本籍の受験者で申請書類が受入不可となった人は、今回の調査ではおりませんでした。

本調査・分析が、何らかのお役にたち、また皆様のご関心に叶いましたら幸いです。
PE 鈴木

植村会長便り

植村会長の記事がNSPEmagazineの2月に掲載されました。

NSPEでの米国のみならず日本、カナダ、ブラジル、韓国など世界の技術者が話し合うことで技術融合をもたらし、PEライセンスを通じて、社会の発展に寄与することを主張した内容である。

CONCEPTS

Technology Fusion and PE Licenses

BY DAISUKE UEMURA, P.E.



It has been five months since my big move from Tokyo to San Francisco, where I now work as a development analyst for AMB Property Corp.

As a development analyst and as the president of the Japan Society of Professional Engineers, I have experienced and enjoyed learning about the similar and different technologies used in the U.S. and Japan. Just looking around my desk, there are some technologies that are not commonly used in Japan, such as compact fluorescent light bulbs and handheld smart

phones with PC functions. On the other hand, the construction of a high-speed rail system between San Francisco and Los

for trucks to reach the upper floors. These spiral ramps require very highly skilled design and construction.

On the other hand, most U.S. warehouses are one story and have wide, square floors because land is cheaper and more available than in Japan. Layout and design of these warehouses are comparatively simple, but one unique construction method, the tilt-up wall, is often used. This design method can be used only in wide warehouses because the walls are fabricated on the floor then lifted and positioned by cranes. These examples—spiral ramps and tilt-up

What each culture brings to the table is very different but also very beneficial to each other's advancement.

phones with PC functions. On the other hand, the construction of a high-speed rail system between San Francisco and Los

walls—were developed to fit within the constraints of each country. However, it is not impossible to combine them into

合格体験記

PE 登録体験記 1

ワシントン州 PE 登録手続体験記

2009 年 2 月

藤田 崇

1. はじめに

2009 年 1 月に “Washington state department of licensing” (以下 DOL) に PE として登録が完了しました。

私自身、日本での PE 試験合格者の PE 登録申請については情報が少なく苦労いたしました。今後、Washington 州に登録申請される方の参考に私の登録手続きについて紹介します。

2. PE 登録までの流れ

- 2007 年 10 月 ・東京での FE 試験受験
- 2008 年 1 月 ・ FE 試験合格通知
・ PE 試験申し込み
- 2008 年 4 月 ・東京での PE 試験受験
- 2008 年 6 月 ・ PE 試験合格通知
- 2008 年 9 月 ・ JSPE 合格祝賀会
- 2008 年 10 月 ・ JSPE 入会
- 2008 年 11 月 ・ Reference の PE 3 名と面接
・ 大学卒業証書、成績証明書(英語)入手
- 2008 年 12 月 ・ PE 州登録申請書の送付
・ NCEES に対する PE, FE 試験証明書の送付依頼
・ Verifier に対する履歴書の確認、送付依頼
・ Law and Ethics の試験問題の入手、回答の返送
- 2009 年 1 月 ・ DOL から登録承認の連絡
・ Certificate の受領
- 2009 年 3 月 ・ Wall certificate の発行(予定)

3. DOL への提出書類

登録の為に DOL に提出した書類は以下の通りです。

- a) 登録申請書(Application by comity)
(ホームページからフォーム入手、Reference 5 名(内 PE3 名)の記載要)
- b) 履歴書(Experience and Verification)
(ホームページからフォーム入手、Verifier(会社の上司)から DOL に送付、社内 PE1 名の記載要)
- c) PE, FE 試験証明書(Exam Verification request)
(ホームページからフォーム入手、NCEES から送付)



- d) 大学卒業証明書、成績証明書 (大学発行の英文証明書)
- e) Law and Ethics の試験解答 (DOL から郵送で入手)

但し、上記全ての提出が必須であるか分かりません。経緯については ” 4 . 登録までの道のり ” に記載します。

4 . 登録までの道のり

PE 試験合格から登録までを時系列に記載します。

a) FE, PE 試験

2007 年の 10 月から PE の試験が日本で再開されることを知り、2007 年 10 月の FE の試験から受験をしました。2008 年 6 月の PE 試験合格通知後、登録申請方法で行き詰まり約 3 ヶ月登録作業を中断しました。

b) JSPE の合格祝賀会

この時点では JSPE に加入していませんでしたが、PE 登録申請方法が分からず行き詰っていたこともあり JSPE の合格祝賀会に参加いたしました。合格祝賀会では登録に関する有益な情報も聞くことができました。中でも PE の州登録の際に、州によっては 2 年以内の PE 試験結果しか認められない可能性があることを知り、慌てて申請作業を再開しました。業務に関係する Columbia 州、California 州は SSN 所持等の条件により登録できない為、対応が良いとの話がある Washington 州に決めて登録作業を開始しました。

c) Reference の依頼

当初、References として記載する PE3 名を仕事で関係する他社の方に依頼しようとしたのですが、Experience and Verification に 1 名の社内の PE を記載する要求があり、社内の PE を探しました。

社内の業務上関連する部門に PE がいない為、人づてで探したところ、私とは別の業務を行なう部門に所属する PE 3 名を紹介いただきました。3 名と面会をし、実際に会って業務紹介等を行い快く引き受けていただきました。

申請書に記載した PE3 名はそれぞれ Washington 州以外の州に PE 登録し、私の登録申請した分野 (Electrical) とは異なる分野の方々でしたが、DOL から指摘は有りませんでした。

尚、Reference を依頼した方が JSPE の会員であることもあり、JSPE に入会しました。

d) PE 州登録申請書の記入

“ Washington state department of licensing ” (DOL) のホームページ (以下の URL) から申請書類をダウンロードして記入し、提出しました。

” <http://www.dol.wa.gov/business/engineerslandsurveyors/elforms.html> ”

日本で NCEES 主催の試験を受験した場合に該当するフォームが有りませんが、DOL に問い合わせをすると Comity のフォームを使用するように回答がありました。

DOL へのメールでの問合せ先は ” engineers@dol.wa.gov ” です。メールで質問をすると 1,2 日で回答があります。

最初にメールで問い合わせをしたときは回答が有りませんでした。NCEES 発行の PE 試験合格書のイメ

ージファイルを付けて再度同じ質問したところ、回答が有りました。

質問した相手が日本での PE 試験について認識していない可能性も有るので、最初は PE 試験の合格書を添付するとよいかもかもしれません。

Comity の申請フォームは 9 ページで、以下の 4 つに分けられます。

- i) 1 頁目 : Instruction
- ii) 2~4 頁目 : Application by comity (申請者が DOL に送付)
- iii) 5~8 頁目 : Experience and Verification (Verifier から DOL に送付)
- iv) 9 頁目 : Exam Verification request (NCEES から DOL に送付)

PE 申請フォームは pdf 形式で、PC でフォームの記入欄に直接記入できる様式となっています。pdf 形式のファイルに記入するためには Adobe Acrobat (Reader では無い有料版) 等のソフトウェアが必要です。私は Adobe Acrobat を持っていないためフリーソフトの "PDF-XChange Viewer" を使用しました。無料版では機能が制限されますが申請書類を作るには事足ります。

- e) PE 州登録申請書の送付
以下の資料を DOL に送付しました。

- i) 送付物 : 登録申請書(Application by comity)、申請手数料(110USD : 国際郵便為替)、大学卒業証明書・成績証明書
- ii) 送付先 : Washington State Board of Registration for Professional Engineers and Land Surveyors
P.O.Box 9025 Olympia WA 98507-9025
- iii) 送付方法 : 郵便局の EMS(Express Mail Service)

第三者機関による学歴評価の提出は明記されていなかった為、大学が発行する英文版の卒業証明書・成績証明書を添付しました。

払い込みは国際郵便為替を使用しました、送金する 110USD 以外に手数料が 2000 円かかります。合格直後に DOL のホームページからダウンロードしたフォームでは申請手数料は 70USD と記載されていましたが、12 月の申請の直前に、最新の申し込みフォームを再確認したところ、フォームの一部が変更になっており手数料も 110USD に値上げされていました。

私のように申請フォームのダウンロード後に申請書の作成や、Reference の依頼に時間が掛かることも有ると思いますので、申請書類送付時に最新のフォームを確認したほうが良いと思います。

Reference の欄は 5 人の方にそれぞれ直筆での記載をお願いしました。但し、Reference の欄も pdf ファイルに直接記入可能であり、直筆でなくても良いかもしれません。

- f) ワシントン州への PE, FE 試験合格証明書の送付依頼

東京で行なわれる NCEES 主催の FE, PE 試験で合格した場合、NCEES からワシントン州へ試験の合格証明を送付する必要があります。NCEES のホームページから合格証明の送付依頼について問い合わせたところ "Ashley Bernazzoli" abernazzoli@els-examreg.org 様からメールで返答が有り、申請書類 9 頁目のフォームに申請者が記入すべき箇所を記入し、"Ashley Bernazzoli" 様にメールで送付しました。

2 日ほどで、DOL に発送する旨の返事が来ました。

- g) 履歴書の記載、Verifier への依頼

申請書類、5~8頁目の履歴書に記入し、Verifierに評価の依頼をしました。Job descriptionの項目の要求が分からず悩んだ為、記載に非常に時間がかかりました。最終的には州登録 TIPS ver3 を入手したため、TIPSの解説を参考にして、自身の経験を交えるように意図して記載しました。

Verifierは職場の上司に依頼しました。VerifierがPE登録者では有りませんがPMPの登録していたため、履歴書の”what authority are you verifying experience”の部分にはPMPの資格を記載頂きました。又、申請書にはReferenceを依頼した社内PEの方の名前とライセンス番号も記載しました。

h) Washington州、Law and Ethicsの試験問題の入手、回答、送付
申請書類の郵送から約3週間後にDOLから自宅に郵送で書類が届きました。内容は以下の4点です。

- i) DOLが受け取っていない申請書類の連絡
- ii) Law and Ethics試験の回答方法、返送先等の説明
- iii) Law and Ethics試験問題
- iv) 回答用マークシート

上記レター”i)”で、DOLでは”Law and Ethics exam”, “EIT and PE license verification from NCEES Japan”を受け取っていないとの連絡が有りました。

NCEESには3週間前にverificationの送付を依頼しておりましたが、NCEESからのverificationの到着が、上記レター”i)”の発行と前後することも考えられましたので様子を見ることとし、”Law and Ethics exam”に取り掛かりました。

試験問題は25問の4択の問題で合格には80%を正答する必要が有ります。州法についてはDOLの下記URLからダウンロードできます。

<http://www.dol.wa.gov/business/engineerslandsurveyors/ellaws.html>

問題毎に該当するLaw and Ethicsの番号が示しており、何処かに回答に該当する文言が有ります。根気よく文言を探す必要は有りますが、回答に悩むことは有りませんでした。

試験問題は回答と一緒にDOLに返送する必要があるため、メモ等の記入はできません。DOLからの書類到着から2日後に回答を記入したマークシートと試験問題をDOLにEMSで返送しました。

i) 登録承認及びLicense発行予定日の連絡
申請書類の郵送から約3週間後にDOLから自宅に郵送で書類が届きました。内容は以下の2点です。

- i) 登録申請の承認及びLicense発行予定日の連絡
- ii) Washington州のPE stampに関する説明

j) Certificateの受領

上述の連絡を受けてから約2週間後にDOLから自宅に郵送でLicenseのCertificateが届きました。名前、ライセンス番号、発行日、有効期限が書いてある非常に簡素なものです。

ライセンスの有効期限は今年の私の誕生日であり、有効期限は数ヶ月しか有りません。

ここで、私の名前の綴りが間違っていて登録されていることが分かり、DOLに対してメールで修正を要求したところ、数分後にDOLから回答が有りました。

DOLの回答では3月のボードミーティングでサインされる”Wall certificate”には反映されるところのこと

でした。

5. 終わりに

DOL の登録手続きは迅速で、申請書の送付から約 6 週間後に申請承認の連絡が来ました。しかしながら、登録申請に関する情報の少なさと、語学の壁（特に Job description は難解）により、申請書作成に時間がかかり合格から登録まで約半年掛かってしまいました。

JSPE の情報は、DOL 以外のほぼ唯一の情報源であり、特に州登録 TIPS はとても参考になりました。上述の私の話が今後ワシントン州に登録される方の少しでもお役に立てれば幸いです。

JSPE の方々には親身に対応頂き、この場を借りてお礼とさせていただきますたく存じます。

PE 試験合格体験記 1

PE 試験合格体験記

1. 氏名：新井憲法（あらい よしのり）
2. 会員番号：PEN-0021
3. 専門分野：Chemical Engineering
4. 試験日：一回目：2008 年 4 月 二回目：2008 年 10 月
5. 使用した参考書、問題集

Chemical Engineering Reference Manual For the PE Exam.
Practice Problems for the Chemical Engineering PE Exam.

6. 試験当日持ち込んだ図書
自分で問題を解いたノート
化学便覧
化学機械の理論と計算

7. 体験記

私の所属する部署に PE を志す先輩がいた関係から、私も 2002 年秋に日本で実施された FE 試験を受験し合格しました。JSPE にも入会し、PE 受験を計画しておりましたが、アメリカでの同時多発テロ以降横須賀の基地での受験が出来なくなりまた、仕事でも長期出張が重なり PE 受験から遠ざかっていました。

JSPE からの連絡もあり出張から戻ってきた時期に鬼金セミナーに参加し PMP に関するセミナーに参加し、PMP を取得しました。

再び、日本での PE 試験を受験することが可能となったため受験を決意しました。

2008 年 4 月の試験を受けるため急遽必要な書類を集めぎりぎりですべて 1 月に受験票を提出し、それから受験準備を始めました。

当初、なにかから手をつけていいかわからず、Practice Problems for the Chemical Engineering PE Exam. を最初から最後まで取り組その後、Chemical Engineering Reference Manual For the PE Exam. を飛ばしながら実施しました。

勉強時間を自宅で取ることが難しく通勤の往復の電車の中で取組ましたが、なかなか頭に入りませんでした。自宅では、休日の数時間を勉強の時間としました。オープンブック形式の試験ですが、出題範囲も広く、単



位換算等もあり 3 か月の期間では十分な時間を作ることが難しかったようです。こうして一回目の受験を 4 月に迎えましたが、午前 4 時間、午後 4 時間の試験時間は長いようであつという間にすぎ疲労感が募りました。

その後、6月に東京から大阪への転勤となり一回目の試験の不合格通知は転勤先で受けました。仕事も忙しいおりで再受験をどうしようか悩みましたが、二回目の受験は提出書類も少なくて済、また、試験の雰囲気記憶しているうちに受験した方が良いと思い、思い切って申込ました。

二回目の受験ということもあり、試験内容も記憶に新しく同じ練習問題を解くにしても理解し易く感じました。また、一回目の受験で回答出来なかった関連の問題を集中的に解き、ノートに問題の解き方を自分の手で記入することにより試験会場でも分かり易かったと記憶しております。

また、勉強時間も転勤のため電車通勤では無く単身赴任であったため、休みに図書館でまとめて時間を取りました。

試験合格の結果を受領したときは、非常に嬉しかったです。

8 . 最後に

今後、PE の登録を前に Reference の問題や申請方法等全く手を着けておらず先が思いやられますが、JSPE 殿のご協力を仰ぎながらひとつひとつ準備を進めたいと思います。

今後ともよろしくお願い致します。

PE 試験合格体験記 2

私の 2008 年秋 PE 受験記

武内洋幸

これから PE 受験、特に環境工学で受験される方に、すこしでもお役に立てるようにペンを執りました。

受験分野の決定

大学専攻は建築学で、一級建築士として建築設計を業務としていた中で、環境問題に対する工学的アプローチ（環境配慮設計など）に関心を寄せていた。そこで 37 歳でアメリカのミシガン工科大学大学院で建設環境工学を専攻し、MS in Environmental Engineering を修了した。帰国後すぐ（2003 年）FE 試験に合格し、PE 受験を計画していた。大学の専攻の環境工学で受験することには迷いがなかった。土木で受験することも検討はしてみたが、土木の受験内容には、環境の専門家としては物足りなさを感じていた。



受験州の決定

日本では環境工学は受験できないこともあり、迷わず母校のあるミシガン州に決定した。受験会場が母校であることもあり、安心して申請しました。

受験申し込み

2008 年 10 月受験に際し、7 月 30 日に ELSEES にインターネットで申し込んだ。事前に ABET 審査（大学および大学院卒業証明書、成績証明書の審査）を終えていたので、メールでまもなく申し込み終了の返事が来た。受験票が着たのは、試験 3 週間ほど前だったと思う。ABET 審査のみ終了しておけば、非常に簡単な手続きで受験できることになったのは、とてもよかったことであると感じていた。

受験学習

2007年12月に受験を決意し、4月受験では学習が間に合いそうもなかったため、渡米しなければならぬこともあり確実に合格できることを考え、2008年10月を目標とした。毎日2時間は学習しようと決意したが、本格的にやり始めたのは6月中旬であった。毎日2時間の学習時間は確保でき、4時間以上学習する日も多々あった。総合学習時間は300時間程度あり、これだけやればまず合格できることを確信していた。環境工学は全分野を平均的に学習することが重要であり、残念ながら私は経済アナリシスを捨てていたので、本番試験もできなかった。環境工学においては全分野学習しておくことをお勧めする。自分の得意分野だけを重点的にするというのは良い作戦ではない。教材は以下の5冊を学習した。それ以上深い学習は必要ないと思われる。

Lindeburg Reference Manual Environmental Engineering
Lindeburg Practice Problem for the Environmental Engineering PE Exam
Environmental Engineering Practice PE Exam
Sample PE Exam
KAPLAN PE License Review

学習プランは4期+仕上げとした。英語には慣れていないとはいえ、また5冊だけとはいえ、結構ボリュームがあり、計画と実行を試行錯誤しながらということになったが、本番まで修正しながらも計画はほぼ実行できたといってよかった。学習方法は以下のとおり。

- 1期 参考書 をすべて読む。例題にもペンを執りながらすべて読む。3週間
- 2期 参考書 を1日7問解く。すべての問題を解く必要はない。6週間
- 3期 参考書 を3回繰り返し解く。2週間
- 4期 参考書 を3回繰り返し解く。3週間
- 仕上げ 予想問題を想定し試験の模試として集中し学習する。2週間

渡米

会場は母校だったので、慣れた旅だった。試験3日前夕方にホテルに着いた。会場近くのサービスのよさそうなホテルをネットで契約した。試験は早朝なのでタクシーを手配してもらい、会場に向かった。会場には8人しか受験者がいなかったが、その中で1人母校の友人がいて会話をした。

試験

計算問題が8割以上であり、計算機を十分に活用した。勘で解いた文章問題が2問ほどあったが、計算問題は統計学と経済学以外はほぼ自信があった。統計学と経済学はあまりやっていなかったため残念であったが、合否には支障がないと思った。

合否通知

合格通知が封書できたのはクリスマスだった。なによりのクリスマスプレゼントであった。Pass と書いてあるだけで簡単なものだった。今後の手続きについての説明があり、登録の準備をすぐ計画した。

全体の感想

試験会場に持ち込む参考書は上記5冊+辞書で十分であり、また計算問題に慣れておいたので、参考書を見たのは公式を確認するだけであった。つまり公式だけで試験は十分だった。安心のため上記5冊は持ち込むことをお勧めする。

PE 試験合格体験記 3

1. 氏名： 大浜 好暁 (おおはま よしあき)
2. 会員番号： PEN-0019
3. 専門分野： Mechanical (Machine Design Depth)
2008年10月26日(日) / 東京・芝浦工業大学
・豊洲キャンパス
5. PE 試験挑戦回数：
1 回目



6. 使用した参考書、問題集：

- (1) Lindeburg/Mechanical Engineering Reference Manual for the PE Exam Twelfth Edition
- (2) NCEES/Mechanical Engineering Sample Questions & Solutions
- (3) 学生時代に使用していた教科書類 7~8 冊

その中で特に役立ったのが、

工学のための力学(上・下) ハーバート・ジョンソン著/長谷川節訳 プレイン図書出版/丸善
第4章~第17章

振動解析の理論と応用(上) マイケル・ツァ著/砂川恵訳 プレイン図書出版/丸善
第1,2章

、とも原著はアメリカの大学教科書だからか、説明が平易で、かつ例題/問題が PE 試験と非常によく似ています。

7. 勉強時間： 勉強期間は8月~10月(3ヶ月間)

勉強時間は平日平均1時間(通勤時間30分および帰宅後30分)、

土日祝日は平均8時間(会社の会議室)

8. 試験場に持参した図書類：

上記6と同じ

加えて英和辞書(試験中数回使いました。)

9. 合格体験記：

受験動機

入社以来十余年、今までの仕事での経験がどの程度社外で通用するものか知りたくなり、技術士にチャレンジしようとしていたところ、JSPE 会員の友人より、PE の話を聞き、取得を決意しました。

受験申請

2007年10月の東京 FE 試験に合格した後、2008年10月に東京 PE 受験と決め、2008年7月末日の締切日に受験申請を行いました。

勉強方法

最初は上記 6.(1)Reference Manual を通読し、Lindeburg/Practice Problems を解こうと思っていましたが、PE を目指すものとしてあろうことか英語の読解にかなりの時間が掛かり、3ヶ月後の試験までに一通り通読することが到底不可能だったので、下記の 3)通りに場合分けして勉強しました。

- 1) 理解しているところは、Reference Manual の Example のみ解き確認
- 2) AISI, ASME, ASTM, SAE 等 Reference Manual 特有の記載事項のみ通読
- 3) 分からないところ、苦手なところは 6.(3)の日本語で記載された教科書を読み、それに記載の例題お

よび問題を解いた上で、Reference Manual の Example を解き、単位換算等に慣れる
(結局、Lindeburg/Practice Problems は買ったもののやらず仕舞でした。)

また、すべての範囲を満遍なく勉強するのも時間が足りなかったので、午後の試験科目(Machine Design Depth)を重点的に、Machine Design(60%) > Fluids & Thermo(30%) > HVAC(10%)という時間配分となるよう心掛けて勉強しました。

6.(1)Reference Manual には、試験問題を解くのに便利な図表・数式が数多く収納されているので、問題を解きながら、どこにどういう図表・数式が載っているかを掴むことに留意しました。

さらに、試験 1 ヶ月前からは、6.(2) Sample Questions & Solutions を活用し、本番に近い形式の問題に慣れるようにしました。

試験前日～試験直前

自宅が神戸なので試験前日午後木場のホテルに到着し、1泊しました。

前日は今更あがいてもしょうがないので、勉強はほどほどにして10時頃には就寝しました。

また、当日は晴れていたため散歩がてら木場から試験会場の豊洲まで20分強掛けて徒歩で向かいました。かなりリラックスして試験を迎えられたことは良かったと思います。

試験

午前・午後ともに問題数は4時間で40問なので、1問あたり6分を目安に順序よく解いて行きました。4分掛けてあと2分で解けそうにない問題は取りあえず飛ばし、後で解くことにしました。

とにかく焦らず落ち着くように心掛けました。

受験生へのアドバイス

アドバイスなどという大層なものではありませんが、下記に3つ記載します。

1) 少ない勉強時間を自分なりに有効に活用して下さい。

平日にあまり勉強時間が取れなかったため、平日は通勤時間や帰宅後少しだけの学習に留めて、休日にまとめて勉強することにしました。また、英語の速読力にも問題がありましたので、PEを目指している者にとっては邪道かもしれませんが、受かることが先決と割り切って日本語の教科書も多用しました。

少ない勉強時間だとしても自分なりに有効に活用することを考えて頑張ってください。

2) JSPE、先輩PEを活用しましょう。

積極的にJSPE主催のPE受験セミナーに参加して情報収集しましょう。また、JSPE主催のCPDセミナーに出席したりして、先輩PE諸氏と交流することは非常にプラスとなります。最新の試験情報のみならず、先輩PEの試験勉強の方法、資料の整理方法等、ためになること満載です。また、先輩PE諸氏の意識の高さに触れることで、モチベーションが上がります。

3) 試験は落ち着きましょう。

試験は満点である必要はありません。6割程度の正答で合格とのことですので、解けない問題があっても焦らず、「3割捨ててもまだ7割」くらいの気持ちで臨めば案外リラックスできます。

10.最後に：

JSPE 関西のPEの皆様にはセミナー等を通じ、多くのアドバイスおよび叱咤激励頂きました。おかげさまで合格することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

大浜 好暁

PE 試験状況

NCEES 発表の 2008 年 10 月の試験合格率と日本の会場での合格率

FE試験合格率

Examination Module	Oct-08		Apr-08	
	First-timetaker	Repeat takers	First-timetaker	Repeat takers
Chemical	82%	46%	86%	41%
Civil	70%	29%	73%	23%
Electrical	67%	29%	74%	29%
Environmental	76%	34%	75%	39%
Industrial	66%	27%	66%	14%
Mechanical	81%	32%	85%	45%
General	74%	29%	78%	27%

PE試験合格率

Examination	Oct-08		Apr-08	
	First-time takers	Repeat takers	First-time takers	Repeat takers
Agricultural	75%	0%	79%	24%
Chemical	79%	34%	73%	23%
Civil	60%	25%	64%	29%
Control Systems	73%	28%		
Electrical and Computer	70%	26%	69%	34%
Environmental	73%	43%	63%	21%
Fire Protection	51%	32%		
Industrial	79%	32%		
Mechanical	70%	38%	67%	37%
Metallurgical and Materials	56%	56%		
Mining and Mineral	80%	59%		
Nuclear	35%	0%		
Petroleum	73%	47%		
Structural I	46%	24%	46%	24%
Structural II	59%	29%	56%	32%

試験会場 日本

クラス	Oct-08			Apr-08		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
FE	202	103	51%	85	35	41%
PE	47	21	45%	44	27	61%

会員からの投稿

成田空港のはなし / 私の職場紹介

PE-100/Civil 義本正実

私の職場、成田国際空港株式会社（NAA）は、2004年4月に新東京国際空港公団が民営化した全額政府出資の特殊会社です。成田空港の建設・管理を主たる業務としており、現在は完全民営化（株式上場）に向けて財務体質の強化を図っています。

「成田国際空港」（2004年の公団民営化に伴い新東京国際空港を名称変更）は、空港反対派との長い対峙の歴史を経て1978年5月に計画の半分の施設で開港しました。2002年によようやく2本目の暫定平行滑走路が供用し、現在はその暫定平行滑走路の延長工事を行っています。そうして2009年度内に成田空港の全体計画が完成する予定です（滑走路の延長は反対派農家が住んでいない北側方向に進めているため北伸計画と呼ばれています）。さらに、2010年春には成田空港へのアクセス向上として京成電鉄の短絡路を建設（北総鉄道を延長）し、日暮里～成田空港間を36分で結ぶ「成田新高速鉄道」が開業します。今後は、羽田の第4滑走路が完成する2010年10月に羽田を再国際化し、成田・羽田両空港を一体的に活用して増大する首都圏航空需要に24時間に対応するというのが政府の方針です。

NAAの社員は730人で、そのうち260人が技術系です。土木、建築、機械、電気、通信、環境といった分野の技術者が空港の建設から管理までを行っています。技術系組織は、主に経営計画部、工務部、工事部、保全部の4つで、社内で計画、設計、工事、運用のPDCAサイクルが完結するところがNAAの強みだと思っています。私は自分が作った施設の具合を見て失敗談と改良案を若手に話しています。



写真： B滑走路延長工事（北西）

NAAは民営化によって経営の自由が認められました。経営を安定させるために航空収入以外の分野にも力を入れています。そのひとつが免税店の経営です。それまでターミナルビルには最小限の商業スペースしかありませんでしたが、ビル所有者である強みを生かして大胆に商業エリアを増築し2つのターミナルビルにそれぞれ「narita nakamise」「ナリタ5番街」というブランドモールを展開し、世界4位の評価を得ています。また、CS (Customer Satisfaction/顧客満足)にも力を入れており外部機関の評価を導入して常に改善に努めています。約48,000人いる空港スタッフの中から優れたサービスを評価された人にはCSアワードという表彰制度があり、選ばれた人の顔写真が1年間ターミナルビルに張り出されています。NAA社員は定期的にターミナルビルの案内係も体験します。私はインフォメーションBOXに案内係の女性と並んで座り一日中旅客の質問に対応をしたこともあります。この時は何を尋ねられるかわからない緊張感を味わいました。民営化したNAAは羽田国際線新旅客ターミナルビル建設運営のPFI(2010年秋開業予定/事業期間30年)にも出資しており資本的にも羽田と近い関係にあります。

今や空港はひとつの大きなシステムであり、パーツとしての技術を知るだけでは足りません。近隣アジアの空港整備競争が進む中、利用者が満足し選ばれる空港となるためには新たな知恵の創出が必要でありそれをこなうのが技術者を越えた技術者なのだと思います。そして美しいドラマがまたひとつ成田空港で生まれること楽しみにしています。

海外からの連絡

U.A.E.の砂漠から

会計部会

汐崎亮介

会員番号 PE-0156

現在、私はU.A.E.のトンネルプロジェクト現場で働いております。ここの職場は日本人をはじめ、フィリピンやインド等から来ている人達で構成されており、日本国内の職場とは大きく違った環境となっております。職場でのコミュニケーションは英語が中心となりますが、様々な国と地域から集まった人たちの話す英語は、発音もアクセントも様々で、最初のうちは理解するのにとても苦労しました。それも、時間が経つにつれて理解できるようになり、日々、職場が楽しく感じられるようになっております。U.A.E.の市街地には高層ビルが立ち並び賑わいを見せていますが、車で15分も走ると、砂漠の中に建設された閑静な住宅街に入ります。

さて、こちらに来て一番驚いたことは、砂漠の砂は砂では無かったということです。それはどういうことか簡単に説明しますと、次の通りです。通常、土木工学で扱う土は、その強度的な特性から砂か粘土のどちらかに分類して扱うこととなります。砂に分類された地盤は水を通しやすいため、地盤沈下の問題を引き起こさない反面、地盤の締め固めが不十分だと地震時には液状化という、地下水と砂が地表面に勢いよく吹き出して有害な変形を発生させる問題を抱えています。その一方で、粘土に分類された地盤は透水性が低く、液状化が発生することはありませんが、長期にわたってゆっくりと水を通す性質から構造物を建設した後に有害な地盤沈下が発生する可能性があります。ところが、こちらの砂は強度的な特性が砂であるにも関わらず透水性が非常に低く、粘土のような性質を持っていたのです。中東の砂漠の砂は一見すると普通の砂ですが、このような性質をもっていることから、土木工学上での取扱には注意しなければなりません。

日本においては、透水係数の高い砂は地盤工事に用いる良質な材料として重宝されておりますが、日本国内においては良質な砂の確保が困難であり、地盤工事のために中国等から砂を輸入することもあるぐらいです。私がU.A.E.に来る前は、砂漠には良質な砂が無尽蔵にあると単純に思っておりましたが、こちらでも日本と同じく、地盤工事に使えるような良質な砂はそう簡単には手に入らないのでした。



UAE の首都アブダビの街



首都郊外の風景



建設中のブルジュ・ドバイ（2008年12月）

理事会ニュース

2009年JSPE通常総会のお知らせ

少し先の話ですが、来る2009年6月13日に当協会の年次通常総会を開催します。昨年に引き続きNSPE会長を来賓に迎え、懇親会を開催しますので、奮ってご参加ください。尚、総会プログラムの詳細は追ってお伝えするつもりです。まずは、各位、事前にスケジュール表にチェックを入れてください。

- 日時：2009年6月13日(土)・・・ 詳細プログラムは後日連絡
- 9:30～10:50予定 パート (通常総会) 当会会員のみ
- 11:00～12:20予定 パート (特別講演) 中国マーケットの現状と動向(仮題)
- 講師：柯 隆氏 富士通総研経済研究所・主席研究員
- 総務部会 (cordination.2007@jspe.org)



事業報告書の内容

今年度の事業報告書を会員各位および各部会の協力で作成中です。

掲載項目をお知らせします。

- 1) 植村会長による巻頭書き
- 2) 会員、企画、教育、渉外、広報、総務、会計部会による活動報告
関西部会は総務部会に含まれています。
- 3) 平成20年度会計報告
- 4) PE / FE 試験への支援活動
- 5) 諸活動報告
 - ・ NSPE 総会レポート
(植村さん、内田さん、大久保さん、川村さん)
 - ・ 横須賀基地でのCO-GENE施設見学会
 - ・ PE合格体験記
 - ・ 会員からのたより

以上となります。

2008年度にJSPEの活動内容を報告するだけでなく、これからすべきことを考える資料となるよう内容の充実を図っています

企画部会 (plan.2007@jspe.org)

渉外部会

横須賀米軍海軍CO-GENE見学会・昼食会が09年2月11日に開催されJSPEから13名が参加した。

東電から受電してきたが、省エネとコスト縮減の目的で、96万ドルで38000kWのコジェネ発電所を建設した。昨年11月より運転を開始した。

発電所は3台のガスタービン(7300kW)と3台のガスエンジン(5800kW)から構成されている。

用途は基地への給電(50Hz)と停泊船のメンテ、その他の目的での給電(60Hz)である。

停泊中の米原子力空母ジョージ・ワシントンの姿を見ることが出来写真も撮ることが出来たが、本音としては原子力空母の見学もしたかったので次回は原子力空母の中の見学が出来るようお願いしてきた。

見学の労を取っていただいた、Mr.GabigaとMr.Bartonに感謝します。

渉外部会 (external.2007@jspe.org)



AEE会員募集

CO-GENE見学会を案内していただいたMr.BartonはThe Association of Energy Engineers(AEE)の日本関東平野支部のpresidentでMr.Gabigaはsecretaryを務めています。JSPEの皆様へAEEに入会するよう募集して欲しいとの依頼がありました。興味のある方、皆様是非入会をお願いします。

AEEのホームページは

<http://aeecenter.metapress.com/app/home/main.asp>
です。

Coming event

4月26日 PE/FE 試験

6月13日 総会

FE/PE 合格祝賀会

2008年秋の試験の合格祝賀会(2009年3月7日)は、JPECと合同で学士会館にて開催した。FE試験合格者14名、PE試験合格者13名を含む合計35名が参加した。会員でPE試験に合格した次の4名の会員に記念品を贈呈した。



教育部会 CPD セミナー

教育部会では、2009年1月及び2月に以下のセミナーを開催しました。

1. 第129回 CPD セミナー

日時、場所：2009年1月24日(土) 10:00～14:00、東京・赤坂 JSPE 事務所

テーマ：「欧米流交渉術のエッセンスを学ぶ」

講師：まなび株式会社代表取締役 大塚雅文氏 MBA

今回のセミナーは、講義ではなく演習を中心とし、全て英語で行われました。演習の題材として、工場建設の請負契約交渉を取り上げ、交渉準備の後、参加者の代表者3名が Skype 経由でカナダ在住の方と1時間近く交渉演習を行いました。

2. 第131回 CPD セミナー

日時、場所：2009年2月7日(土) 13:00～17:00、東京・水道橋 貸会議室内海

テーマ：「企業秘密の保護・管理」

講師：JFE エンジニアリング株式会社 赤松秀実氏 PE、ビジネス法務エキスパート(商工会議所認定)

御講演は、特許ばかりが企業秘密ではないとの説明から始め、その管理の難しさ、対応方法について例を挙げて説明いただきました。また、他企業による特許申請時に、自社を守るための先使用権確保の方法についてもご説明いただきました。

2009年4月には、以下のテーマでセミナーを企画しております。ぜひご参加ください。

日時：2009年4月18日(土) 午後

テーマ：「ソルトドーム(Salt Dome)と塩水井戸」

地下の岩塩層に水を注入して、飽和塩水として取り出し、PVC 原料である塩化ナトリウムとして利用する技術について、米国で実際に工事を通して経験された方からご講演いただきます。

2009年度は、上記以外に、電気や環境などの固有技術に関するもの、契約やグローバル人事制度などの管理技術に関するもの、英語での議論法や交渉術などのコミュニケーションに関するものについてセミナーを企画しております。詳細な内容や日時が固まった時点で、ご連絡させていただきます。PDHが必要なPE会員の方はもちろんのこと、FE会員及びAF会員の方も積極的に御参加下さい。

(教育部会部会長 青木豊加 education.2007@jspe.org)

ホームページ便り

前号でホームページから、住所変更などの会員情報の確認と変更を会員ご自身の手で行える事を告知させて以降、多くの方に会員情報の変更入力をしていただきました。ありがとうございました。

まだ、会員情報を確認されていない方は、一度ホームページから会員のページにログインし、「[会員様アカウント情報](#)」をクリックしてご自身の登録内容をご確認ください。

また Member のページに「BBS」という掲示板があるのをご存知ですか? 実は、このところ新しい書込みがなく、休止状態になってしまっています。ホームページを開けたらついでに BBS に行き、情報や感じた事を書き込んでみてください。

4月から新年度を迎えるのを期に、ホームページの管理を手伝っていただける方を募集しています。東京在住でない方も問題なくできるボランティアですので奮ってご応募ください。連絡は広報部会 public.2007@jspe.org までお願いします。

新入会員紹介

氏名： 相原 永 PEN-0017

資格： 無

専門分野： 機械工学

入会動機： 職場の先輩の紹介で J S P E 会員の P E の方と面会する機会があり、そこで J S P E への入会を勧められました。資格を通じて様々な分野の方と交流することは自分を磨く上で刺激になり有意義なことだと思ひまして、入会することにしました。

自己紹介：三重県出身で東京在住です。現在 33 歳ですが、20 代は色々なことを経験してみました。学部では機械工学を、大学院では意思決定論を、それぞれ学びました。職業としても、どちらもやってみました。30 代に入ってから機械メーカーで強度解析を柱としながら、海外向けの案件対応や開発等、様々なことに取り組んでいます。P E 取得は上司からの勧めが契機でした。業務上有効なケースがあるだけでなく、海外の顧客と技術的なやりとりをするのであれば P E は基本的に必要だろうと考え、取得することにしました。現在、ワシントン州に登録申請中ですが、現職での経歴が 4 年に達するまでは保留となり、2009 年 7 月に P E として登録されるとの連絡を受けました。

J S P E に望むこと：

J S P E の存在をもっと世間にアピールした方が良いと思います。例えば手近なところでは、J P E C の W E B サイトからのリンクを分かりやすくするなどです。私が J S P E を知ったのは合格祝賀会でした。

氏名： 中屋 壮平 PEN-0016

資格： 特になし

専門分野： 機械工学【機械設計分野】

入会動機： 去年春の P E 試験に合格して、その後招待いただいた合格祝賀会に参加したことがきっかけです。P E 資格州登録のための情報が収集できることと 自分とは別の業界の方とふれあい、エンジニアとしての視野を広めることを期待して入会しました。

自己紹介：兵庫県宝塚市出身で、大学時代は名古屋で過ごし、現在は神奈川県伊勢原市で妻と二人暮らしの 29 歳です。現在社会人 5 年目で、大学院卒業以来、現在まで自動車メーカーにて駆動部品(デファレンシャル)の設計開発に携わっています。趣味は、バスケットボール、ゴルフ、音楽鑑賞、あと旅行です。いつかお金と時間が許せばシベリア鉄道でウラジオストクからモスクワまで横断したいと考えています。

J S P E に望むこと：

P E 資格州登録のための情報を発信していただければと思います。また他業種の方がどのような仕事をしているのかといった情報についても知りたいです。

氏名： 岩下 哲 PE-0162

資格： 特になし

専門分野： 機械工学【プラントエンジニアリングにおける配管設計】

入会動機： 1 . 自分の受験・登録の際にお世話になっているので、今後 P E を目指す人たちのサポートをす

ることによって恩を返したいと考えたため。

2. 継続的教育を考えたとき、一人では困難と考えたため。

3. 社外のエンジニアの方々との交流の良い機会だと考えたため。

自己紹介：千葉県在住 42 歳です（現在上海へ長期出張中）。落ちる体力と増える体重とに折り合いをつけながらサッカーを続けています。体力を維持してサッカープレイヤーであり続けることと、知力を維持して PE であり続けることを当面のささやかなプライドにして頑張りたいと思っています。よろしくお願いします。

J S P E に望むこと：

例えば機械エンジニアが日本機械学会の講習会等に参加するのは日本人エンジニアにとって一番真つな Continuous Professional Development だと思うので、それがきちんと認定されるような方向に行けたら良いと思います。州（ボード）の数だけ異なる要求が存在するので簡単ではないでしょうが。

氏名： 山田 一貴 PEN-0022

資格： 1 級土木施工管理技士、技術士補（建設部門）

専門分野： 土木工学

入会動機： 今年 PE 試験に合格したこと、技術者として継続的に学習する機会を求めていたこと、社外の方、異なる専門分野の方と交流することなどを目的として入会しました。

自己紹介：静岡県沼津市出身で、現在は東京都に在住する 37 歳です。過去に約 4 年間海外業務に従事していました。具体的には、主に東南アジアにおけるエネルギー設備に関する調査、設計業務です。趣味はジョギングと筋トレです。

J S P E に望むこと：

実務に役立つ CPD プログラムの企画・開催、会員の方が CPD 以外にどのように技術力、ビジネスマンとしての知識を高めているかの情報共有などをお願いしたいと思います。

氏名： 横山 勝則 PE-0166

資格： 特になし

専門分野： 機械力学、制御【機械分野】

入会動機： C P D セミナー参加により P D H を満たして Delinquent 状態から抜け出すことです。

自己紹介：東京目黒の出身、静岡在住の 46 歳。太極拳師範の妻、大学生（になる予定）と高校生の二人の娘がいます。ここ数年は「静電気でどこまで微細なパターンが描けるか？」について研究をしています。趣味は 自転車です。週末には 中伊豆、駿河湾周辺を走っています。

J S P E に望むこと：

技術者の地位（待遇）向上につながる活動。私も 微力ながら貢献したいと思います。よろしくお願いいたします。

氏名： 井坂 信彦 AF-0042

資格： 行政書士

専門分野：大学時代は理論物理学（カオス）、会社員時代はマーケティング、現在は行政経営

入会動機： 川村武也 PE&PMP にお誘いいただき、「役所が無駄な事業を止められないのは、プロジェクトとして仕事を立ち上げていないからだ」と気付いたため。

自己紹介：東京生まれ、大学は京都、会社は神戸、と西に流れて参りました。神戸空港問題に疑問を感じて 25 歳で市議になり、無党派のまま現在 3 期目です。政治の世界では、神戸市長 関西州知事 内政担当副大統領というキャリアを目指し、リタイア後は内政立て直しのスペシャリストとして世界に貢献したいと考えて

います。

あと、老後は人情ものの映画を一本撮るのが密かな夢です。

J S P E に望むこと：

各分野の専門家であらっしゃる皆様と、一緒に政策立案が出来れば嬉しく存じます。

氏名： 塩野 泰宏 FE-0344

資格： 特に無し

専門分野：機械工学

入会動機：PE 試験を目指そうと思い、情報収集や PE を目指す方との交流が目的で、入会しました。

自己紹介：東京生まれ、東京育ち、現在神奈川の藤沢市在住 33 歳です。妻と息子（3 歳）と 3 人暮らしです。ベアリングメーカーで自動車向け軸受の設計を担当しています。趣味はスノーボードと最近始めたサイクリングです。

J S P E に望むこと：

PE 資格を生かせる転職情報が知りたいです。

氏名： 村林 儀丈 AF-0040

資格： ビジネス法務エキスパート、ドイツ語検定 3 級、船の文化検定初級、英語の資格を少々

専門分野：経営

入会動機：去年、馬場康弘 PE からの紹介で神戸の鬼金 CPD セミナーに参加し、PMP 資格と大久保先生や参加されている他の方々の向上心に魅せられ、主催の JSPE に入会しました。

自己紹介：東京生まれ（0 歳）大阪育ちで、神戸市在住の 35 歳。生後 3 ヶ月の娘（京佳）の父親です。今は船舶機器関係の営業に従事しております。私の趣味の一つは川魚を網で獲って水槽で飼育観賞することです。疲れて帰宅した時に眺めると大変リフレッシュできます。

J S P E に望むこと：

日本が復活していくためにも、これからも魅力的なイベントやセミナー企画を宜しく願いいたします。

氏名： 中矢 壮 AF 会員

資格： 無

専門分野：建築学【構造力学分野】

入会動機：協会を知った理由は、会員でも有り、上司でもある江東氏の紹介を受けたからです。植村会長とも、J S P E とは別の場での面識が有り、その頃から興味を持ち始めました。名古屋市から東京へ転勤した事で、参加が容易になるのを機会に、入会手続きを取った次第です。

自己紹介：飛騨高山生まれ、岐阜育ちで、埼玉県春日部市在住、1 つ年下の琵琶湖周辺出身の妻を持つ、27 歳の若輩者です。建築建材メーカーに就職して名古屋に勤務し、転勤後、今は東京にて技術営業職に就いています。私の趣味は数多く有りますが、年中を通して B B Q が好きで、春は花見 & 潮干狩り & B B Q、夏はキャンプ & 海 & 山 & 川 & B B Q、秋は釣り & 温泉 & B B Q、冬はスノーボード & スキー & B B Q で、主に休日を過ごします。後、最近妻と一緒にスキューバダイビングを始めまして、水深 30 m 迄潜水出来る資格を取得しました。

J S P E に望むこと：

会員の皆さんから学ばせて頂くばかりなので、特に何も有りません。強いて言えば、若い年齢層の会員をもっと増やす様な試みを行って頂きたいです。

氏名： 古谷 茂也 PE-0165

資格： PE、国連英検 A 級

専門分野：土木工学、石油・ガスパイプライン、プロジェクトマネジメント

入会動機：CDP 取得が第一目的ですが、同時に他業界の技術者との交流を通じて新たな情報・視点を得たいと考えております。

自己紹介：大阪生まれ、大阪及び中南米育ちで、横浜市在住の 40 歳です。現在は海外海底管プロジェクトのマーケティング・見積を担当しています。受注時はプロジェクト遂行のために現場に駐在することもあります。野球観戦が好きで阪神タイガースの大ファンです。6 歳の息子と 3 歳の娘を公園へ連れて行くのが週末の務めであり楽しみです。

J S P E に望むこと：

CDP セミナーの継続的实施を望みます。また米国 PE と他国/地域の PE (APEC Engineer 等) との相互承認制度に関する情報発信や手続きの助勢等を期待します。

編集後記

2007 年秋の日本での PE 試験以降、PE 試験合格者は当協会の会員で 23 名に達した。そのうち 7 名の PEN 会員の方がオレゴン州もしくはワシントン州に州登録できた。州登録された方々から JSPEmagazine が役に立ったとの声が寄せられております。これからも役立つ magazine の発行に努めていきます。

JSPE magazine に関してのコメント、感想は edit.2007@jspe.org をお願いします。

編集委員

編集責任者：神野

Ethics 編集委員：田崎

会員紹介編集委員：西川

海外からの連絡：日野

合格体験記：丹下

各国 PE 試験事情：Ammar HASSAN

新入会員：平山

州ボード情報：川村

オレゴン州試験資格認定委員会情報：鈴木